



低騒音型・排出ガス対策型

写真 1-1(1) ホイールローダ(0.5m³) (株)小松製作所 WA40



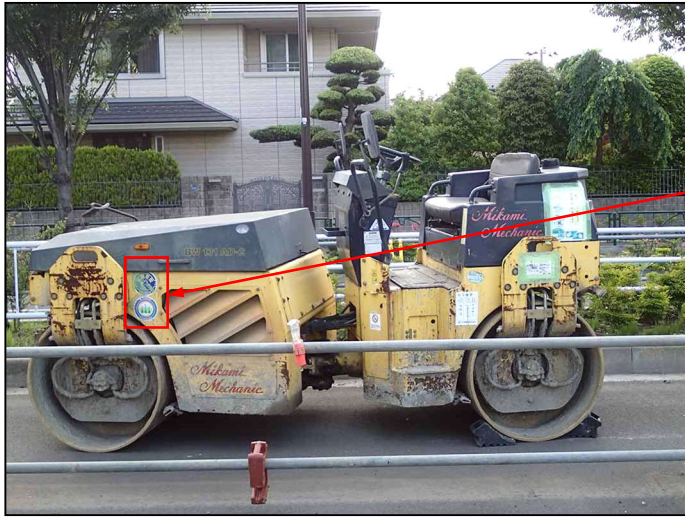
低騒音型・排出ガス対策型

写真 1-1(2) アスファルトフィニッシャ(最大舗装幅 4.5m) 範多機械(株) F45W3



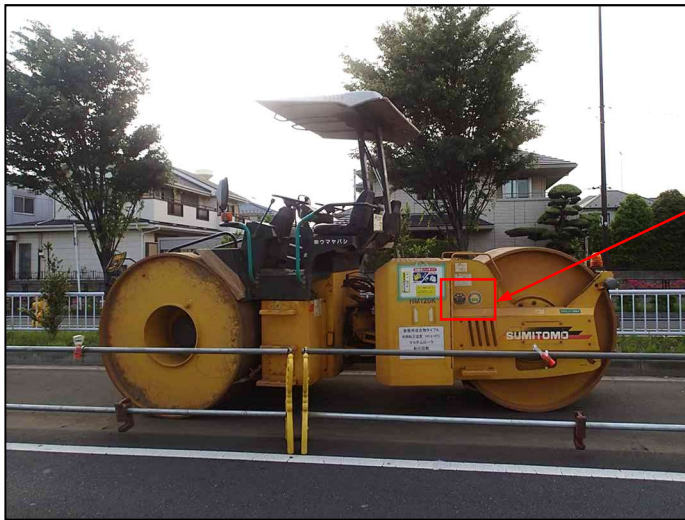
低騒音型・排出ガス対策型

写真 1-1(3) 二層式アスファルトフィニッシャ(最大舗装幅 4.5m) (株)新潟鉄工所 NMAP60TVTM 3



低騒音型・排出ガス対策型

写真 1-1(4) 振動ローラ(4t) 日本ポーマク(株) BW131AD-2



低騒音型・排出ガス対策型

写真 1-1(5) マカダムローラ(12t) 住友建機(株) HM120K-3



低騒音型・排出ガス対策型

写真 1-1(6) タイヤローラ(16t) 日本ポーマク(株) BW20WTB

(2) 評価書の予測結果と事後調査結果との比較検討

①予測した事項（建設機械の稼働に伴う建設作業騒音）

評価書の予測結果と事後調査の結果（騒音レベル $[L_{A5}]$ の最大値）との比較結果の検討の結果を表1-6に示す。

土工[舗装版とりこわし]の騒音レベル (L_{A5}) の調査結果は、2回実施した調査のいずれも最大85dBと評価書の予測結果(80dB)を上回った。予測結果を上回った理由として、予測時に想定していたコンクリート圧砕機及びダンプトラックではなく、路面切削機を使用したためと考えられる。

予測時と異なる建設機械を使用した理由としては、今回の工事は、暫定供用のため仮舗装していた本線部を本舗装(二層式低騒音舗装、一部交差点部等は密粒舗装)するものであり、仮舗装を基層まで所定の深さで正確に切削する必要があること、本線が既に片側2車線(全4車線)で暫定供用されていたこと、取付け道路、歩道等含めた環境施設帯も既に設置されていたこと等により可能な限り短時間で作業を完了する必要があったためである。

「環境確保条例」に基づく「勧告基準」では、切削機を用いる作業の基準は定められていないが、参考として、「工作物を解体し、又は破壊する作業」の基準値(85dB以下)と比較すると、事後調査結果はこれと同値であった。

表 1-6 評価書の予測結果と事後調査結果との比較検討

単位: dB

工区	工種	調査年月日	評価書の予測結果				事後調査の結果				
			作業内容	使用建設機械(規格)	台数	予測結果	使用建設機械(規格)	台数	調査結果		
一般部	土工	令和元年 5月18日	舗装版 とりこわし	コンクリート圧砕機(0.7m ³)	1	80	大型路面切削機(470kW)	1	85		
				ダンプトラック(10t)	1		小型路面切削機(45kW)	1			
				—	—		ホイールローダ(0.5m ³)	1			
				—	—		ダンプトラック(10t)	1			
	舗装工	令和元年 5月18日	敷均し	アスファルトフィニッシャ(4.5m)	1	80	アスファルトフィニッシャ(2.35~4.5m)	1	80		
				ダンプトラック(10t)	1		アスファルトフィニッシャ[二層式用](2.5~4.5m)	1			
				—	—		ダンプトラック(10t)	1			
				マカダムローラ(10~12t)	1		76	振動ローラ(4t)		1	
	転圧	令和元年 5月18日	敷均し	タイヤローラ(8~20t)	1	76	マカダムローラ(12t)	1	80		
				—	—		タイヤローラ(16t)	1			
				コンクリート圧砕機(0.7m ³)	1		80	大型路面切削機(470kW)		1	85
				ダンプトラック(10t)	1			小型路面切削機(45kW)		1	
—	—	ホイールローダ(0.5m ³)	1								
—	—	ダンプトラック(10t)	1								
土工	令和元年 6月11日	舗装版 とりこわし	アスファルトフィニッシャ(4.5m)	1	80	アスファルトフィニッシャ(2.35~4.5m)	1	80			
			ダンプトラック(10t)	1		アスファルトフィニッシャ[二層式用](2.5~4.5m)	1				
			—	—		ダンプトラック(10t)	1				
			マカダムローラ(10~12t)	1		76	振動ローラ(4t)		1		
舗装工	令和元年 6月11日	敷均し	タイヤローラ(8~20t)	1	76	マカダムローラ(12t)	1	80			
			—	—		タイヤローラ(16t)	1				